資料 4-2

複合施設における　【集中型】と【分散型】の比較

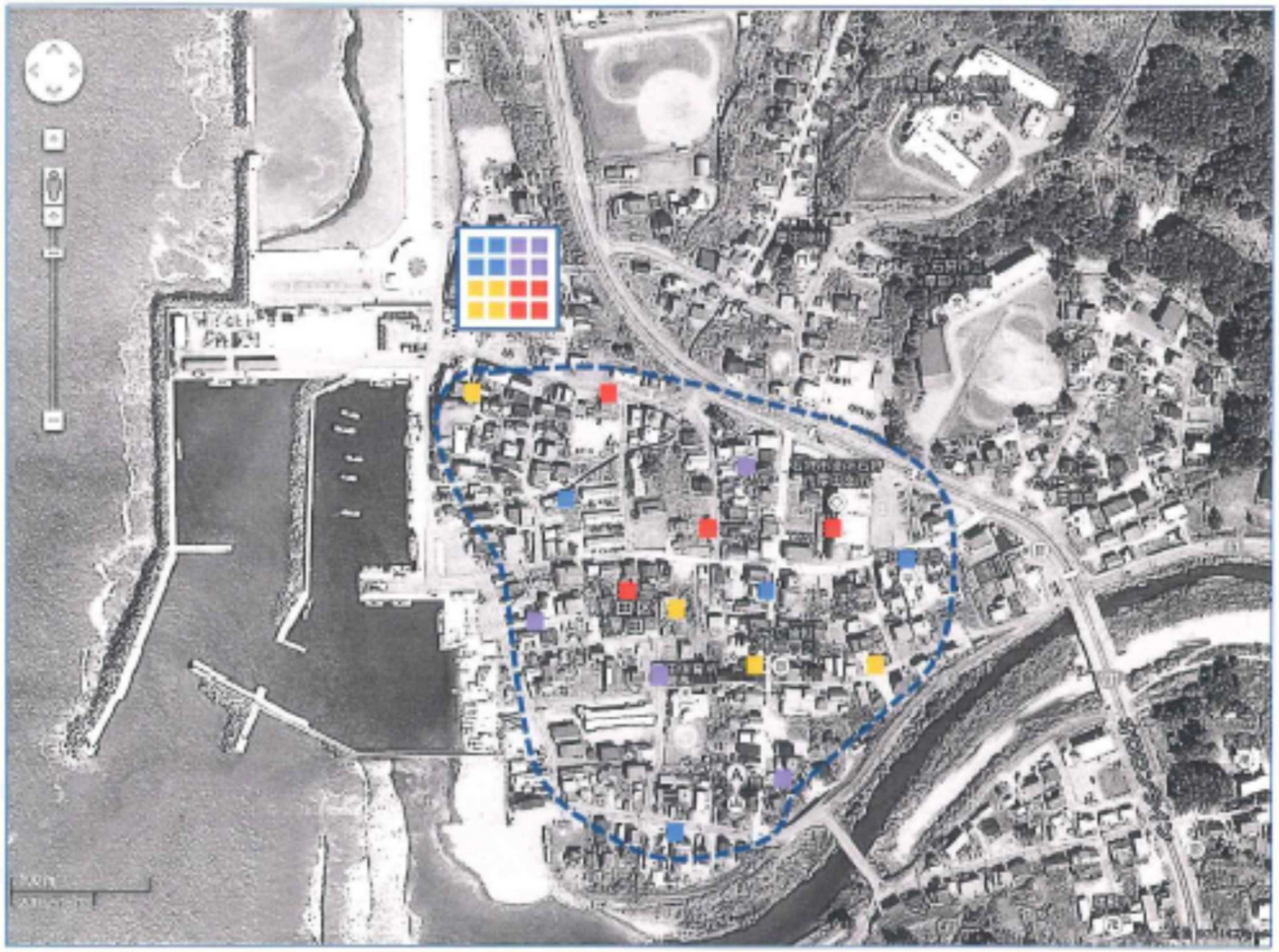
		【集中型】	【分散型】
街づくり	既存街区への影響	限定的な範囲のみに影響をあたえる。	配置計画によっては広範囲に影響を与える。
	既存施設の活用	大きな敷地が必要となり既存街区に配置できないので活用が難しい。	最適な位置に分散配置することで既存施設との相乗効果が図れる。
	景観の継承・誘導	施設の街並みとは違う大きさの建物なので既存の景観を継承していくことは難しい。	類似スケールの建物を複数つくることで景観を継承し、周囲の建物の景観整備を誘導できる。
建築	シンボル性	建築として象徴性の高いものができる。	既存の街並みにとけこみ強いシンボル性はない。
	親しみやすさ	今までの公共建築と同じ。	スケールや整備する棟数によるが、今までの公共建築にはない親密なものができる。
	住民参加	一定の専門的知識が必要となり住民が主体的な意見を出しにくい。	身近なスケールなので空間が把握しやすく住民の主体的な参加が期待できる。
	建設	建設会社による。	地元の工務店での建設を前提とする。
その他	維持管理	管理専門のスタッフが必要。	住民による維持管理を前提とする。
	情報発信	持続する話題性をつくるのは至難。	いくつかの施設がそれぞれ情報を発信することで相乗効果をつくる。
	将来対応	特定の機能に特化してつくるので転用などが難しい。また改修にも専門性が必要。	初めから用途変更を前提とすることで気軽に将来の改変ができる。工事も工務店でできる。

資料 4-3

集中型公共施設
＝複合施設

分散型公共施設

集中型公共施設 VS 分散型公共施設



資料 5

第4回　複合施設建設構想策定委員会　資料

2014年2月24日

1. コミュニティの変遷

1940年　内閣省「部落会町内会等整備要綱」
市には「町内会」、町村には「部落会」が国により整備

地型縁　自治会・町内会

トップダウン型　行政主導

住民主体　**ボトムアップ型**

住民のニーズに直接対応

矛盾

行政の用意したプログラムに住民が参加
一部の人々の行動だけが「住民主体」と見える場合が多い

強制された主体性

主体性を発揮するには（提示された内容への）参加を
するしかないのであれば、これを苦痛に思ったり、
面倒だと考えてしまったりする住民は少なくない

住民は、どのようにして地域との関係を結ぶのか？